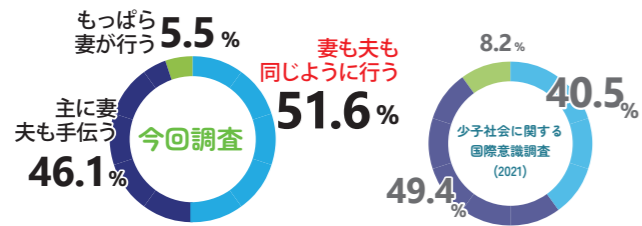


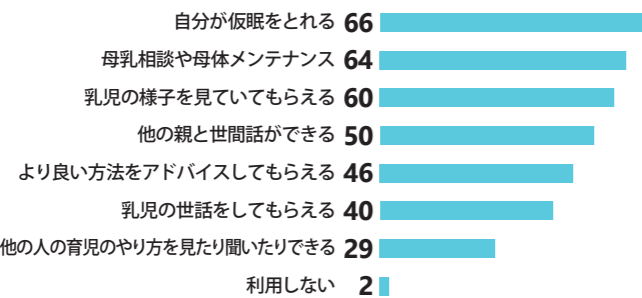
調査1 3つの調査結果より抜粋 **どのようなサポートが必要とされているか～ニーズ把握～**

調査2	2021年10～11月	インタビュー調査	子育て家庭の状況とサポートの必要性の実情把握	事業実現可能性の検討
調査3	2022年2～3月	ニーズ調査アンケート	どのようなサポートが必要とされているのかニーズ把握	協力者128名
	2022年10～12月	利用者アンケート	施行サービス利用者の満足度意見交換	協力者18名

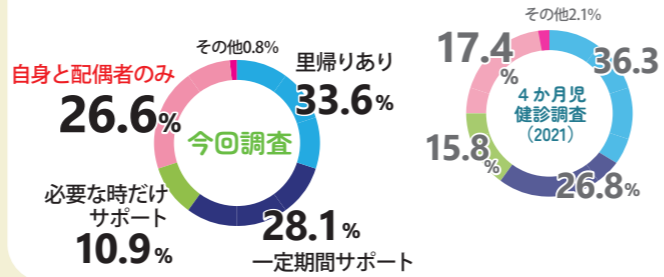
未就学児の子の育児における夫・妻の役割



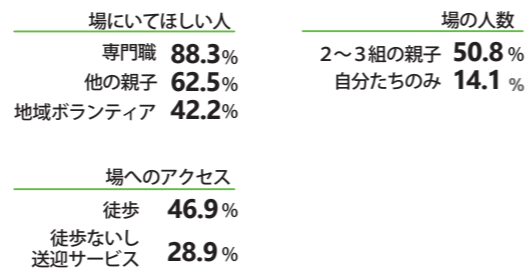
利用したい基本サービス



産前産後の里帰り・親族サポート



サポートのあり方



新生児ファミリーミニステイを実現するためのプラットフォームづくり

「産前産後のおうち」はぜいたくなのか!?

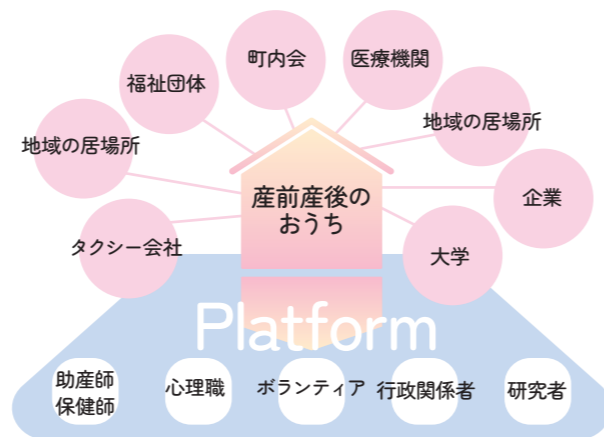
3年間のあゆみ
(2020年4月～2023年3月)

家族を応援する体制を地域につくり、地域ぐるみで支え合える具体的な仕組みを提案してきた3年間・・・。「新生児ファミリーミニステイ」実現の足掛かりとして多様な人たちと検討するプラットフォームづくりの経過を報告します。

3年間の総括（成果）

「多職種連携、市民参加型でのプラットフォームづくりが本事業でネットワーク化され、実走していける可能性」が見いだされた

- 新生児、新しい家族を迎えるための夫婦が親になるための準備やサポート、学びたい意欲に対応できる社会資源や機会、場の不足が浮き彫りになった。こうした課題を補完するための研究や先進事例の知見が今回集約され、今後検討していくためのプラットフォームが築けた。
- 現在は必要とみなされた対象への福祉的処方か、もしくは対価が払えるサービス型に特化した産前産後支援の実状を把握。働き方の調整、家族親族への配慮、近隣との関係性構築など地域生活＝暮らし全般をサポートする機能が求められている。
- 上記機能を補完するための例えば現在、訪問および送迎などの支援をしている回遊する地域人材の活躍や有意性が明らかになり、人生100年時代にふさわしい親子のウェルビーイングも同時に高める可能性が明確になったこと。
- 新生児家庭への支援効果が、生涯にかけた健康維持、増強に大きく寄与し、結果、社会的コストの削減に繋がるというエビデンスが得られたこと。



制度や施策の今後の動向をみながら、寄付や民間資本の投入、他機関との連携、さらに適正な受益者負担を得るなど多方面への可能性を模索しながら「必要とされる人から必要とする人」に最大限応えられる機能を目指す。

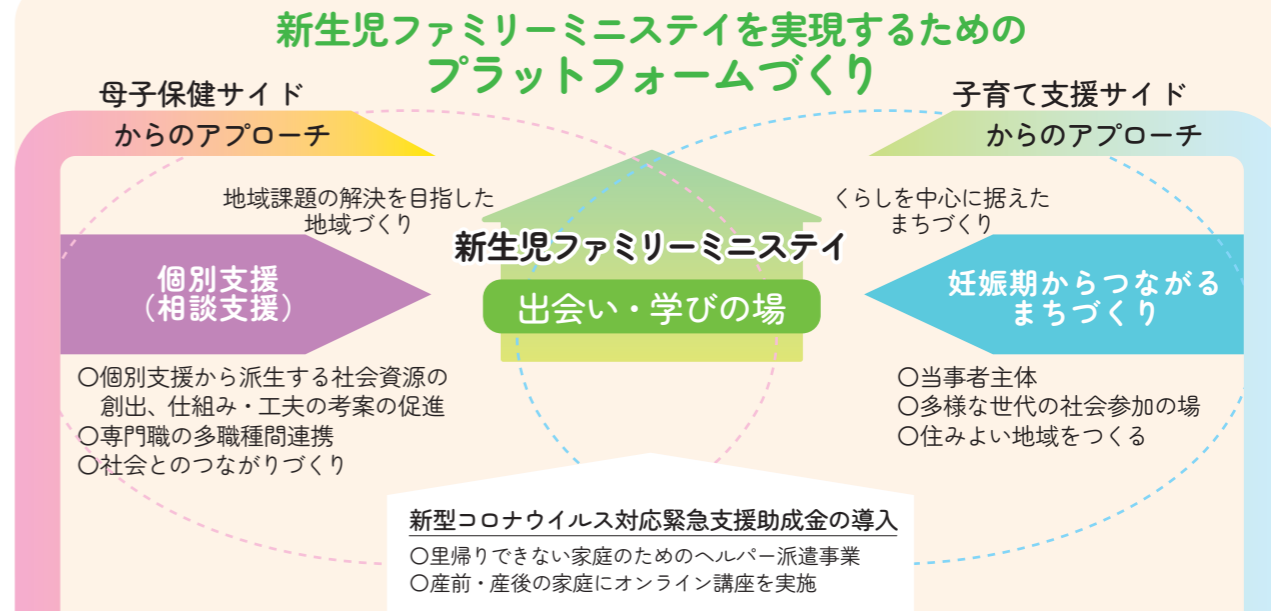
既存のケアの概念から一歩進めた家族まるごと応援できる「地域のおうち」的な役割を担う人材や場を増やしていける道筋が描けたことに、この3年間、多大なご協力、ご支援を頂いた関係各位に感謝します。

- 【実行委員】**
 勝山 幸 世田谷区さくらキッズクリニック 公認心理師
 高橋 由香 横浜市母子訪問指導員・港北区地域子育て支援拠点どうろっぶ両親教室講師
 中根 愛 NTTサービスエボリューション研究所 主任研究員※
 野尻 静 (一社)横浜市助産師会 理事、のじり母乳育児相談室
 堀 聡子 東京福祉大学短期大学部 ことば学科 専任講師
 横山 弥栄美 やまと診療所 日吉※
 ※2020年度
【詳細検討チーム】
 勝山 幸 世田谷区さくらキッズクリニック 公認心理師
 中谷 桃子 東京工業大学 情報通信系 エンジニアリングデザインコース 准教授
 堀 聡子 東京福祉大学短期大学部 ことば学科 専任講師

【評価委員】
 阿部 佳子 やまと診療所 日吉 院長、びーのびーの理事
 岡本 美和子 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授・(公社)日本助産師会 常任理事
 園田 正樹 東京大学 医学部 産婦人科学教室 医師 コネクテッド・インダストリーズ株式会社 代表
 中谷 桃子 東京工業大学 情報通信系 エンジニアリングデザインコース 准教授

五十音順

特定非営利活動法人びーのびーの
 神奈川県横浜市港北区大倉山2丁目7-47
 シャトレ大倉山 103
 Tel. 045-540-7422
 https://bi-no.org/



認定NPO法人びーのびーのは、横浜市港北区における地域子育て支援事業において子育てひろばなど常設の乳幼児の居場所づくりや多世代による交流活動を20年以上行ってきました。近年は行政と協働して妊娠期家庭に向けて両親教室を年60回開催。産後にも各種プログラムの実践や情報提供を行い、その効果測定なども試みてきました。これまで培ってきた多職種の専門職や地域人材との連携を主軸に「切れ目ない支援」を「すべての子どもと子育て家庭に届く支援の実現」を目指して、地域子育て支援の側から提案するプロジェクトです。課題を整理しつつ、国内外の実践事例や研究事業等をまとめ、今後の方向性を探り、『子育て家庭を中心にした全世代参画型社会』を目指すための3年間の活動概要の報告です。

2020～2022年度の活動経緯

22回のオンライン定例会と4ヶ所の視察および3回の調査で知見から見いだせた方向性

調査としてまとめた成果

- 全国における先駆的産後ケア事業の比較調査
- 平成30年度厚生労働省地域保健・保健増進事業報告・全国からの横浜市比較表
- 諸外国における産前産後ケア施策の比較調査
- 乳児家庭利用調査 ヒヤリング(質的)調査と量的アンケート調査

オンライン視察の成果

- 世田谷区立産後ケアセンター
- みやま町産前産後サポートステーション

現地視察の成果

- 横浜市南区みやま助産院
- 横浜市金沢区山本助産院

2020年度

- 第1回 実行委員メンバーでの立ち上げ
- 第2回 『産前産後をとりまく我が国における支援その変遷と現況と展望について』
日本体育大学児童スポーツ教育学部教授 公益社団法人日本助産師会常任理事 岡本 美和子氏
- 第3回 産前産後における状況海外比較(細川)
『横浜市における母子保健 産前産後ケアの現状と展望』
横浜市社会福祉協議会会長(元横浜市副市長) 荒木田 百合氏
- 第4回 国内の産後ケア施設の紹介(細川)
『子育て支援と心理職の仕事・子育て期の切れ目ない支援と被援助志向性』
世田谷区さくらキッズクリニック 公認心理師 勝山 幸氏
- 第5回 世田谷区立産後ケアセンター視察報告会
『地域の助産師としての活動実践から』
横浜市助産師会 理事 のじり母乳育児相談室 野尻 静氏
- 第6回 オンライン視察 佐賀県三養基郡みやま町
『NPO法人きんたるとるハートみやま町産前産後サポートステーション』
『ソーシャルサポートに着目した子育て支援実現に向けた検討』
NTTサービスエボリューション研究所 主任研究員 中根 愛氏
- 第7回 港北区4か月児健診調査報告の共有
『ケアの社会化としての産後ケア事業の可能性』
東京福祉大学短期大学部 小児学科 専任講師 横浜市子ども・子育て会議 子育て部会長 堀 聡子氏
- 第8回 利用者支援事業を基盤として多機能型支援と母子保健のあり方(奥山)
『人生100年時代 家庭訪問と両親教室を通じて』
横浜市母子訪問指導員 港北区地域子育て支援拠点とろっろ両親教室講師 高橋 由香氏
- 第9回 『家庭医の仕事と支援』
やまと診療所日吉 院長 びーのびーの理事 阿部 佳子氏

2021年度

- 第10回 2020年度1年間の成果の共有 産後ケア産前サポートの横浜市の実態 具体的実践スキーム案への意見交換
- 第11回 安心安全に産み育てる社会の実現のために 特定非営利活動法人ピッコラレ 中島 かおり氏
- 第12回 横浜市2助産院視察報告
みやま助産院(南区)・山本助産院(金沢区)
横浜市利用者支援事業の取組み報告(白石)
産前産後ヘルパー派遣事業の状況(伊香)
- 第13回 『地域における多職種と連携した包括的な母子支援の実践』
みやま助産院 院長 宮下 美代子氏
- 第14回 『子育て包括支援センター構想について』
公益社団法人母子保健推進会議会長 佐藤 拓代氏
- 第15回 『産後の疲労感』を測る！エビデンスのある産後ケアを目指して！
湘南医療大学大学院 保健医療研究科専攻科助産学専攻 教授 山崎 圭子氏(発表時:宮崎大学医学部)
- 調査1 インタビュー調査
『子育て家庭の状況とサポート必要性の実状把握～事業実現可能性の検討～』
- 第16回 子育て家庭の状況とサポート必要性の実状把握
『新型コロナウイルス感染症による父親の育児ストレスの実態と関連要因の検討』
『はじめて親になる夫婦の産後のサポートについての情報収集とサポート利用の過程』
順天堂大学 医療看護学部 母性看護学・助産学 永田 智子氏
- 調査2 アンケート(ニーズ)調査 2022年2～4月
『どのようなサポートが必要とされているか～ニーズ把握～』

2021年度

- 第17回 『港北区4か月児健診調査アンケート結果』の共有
世田谷区さくらキッズクリニック 公認心理師 勝山 幸氏
- 第18回 『産婦人科医が子育て支援を行う意義と今後の可能性』
東京大学医学部 産婦人科学教室 医師 コネクテッド・インダストリーズ株式会社 代表 園田 正樹氏

2022年度

- 第19回 昨年度末からの量的・質的調査結果 試行版実施への意見交換会
世田谷区さくらキッズクリニック 公認心理師 勝山 幸氏

試行版 「産前産後のおうち」 2022年9月～12月

一軒家提供
2か所

助産師
2名

利用者
登録者24名
実利用家庭19名
延べ利用回数25回

ボランティア
産前産後ヘルパー
ファミサポ提供会員
地域子育て支援拠点ボランティア
地域の子育て支援ボランティア






産前産後のおうちの過ごし方(例)

- 10:00 集合
近況報告
プログラム
- 12:00 食事
(お弁当とスープ)
- 13:00 休息・休憩・入浴など
- 14:30 振り返り
- 15:00 解散



試行部分の裏話

- ・おうちで「どんなことをするのか」イメージを説明しづらい
- ・利用者が妊産婦で体調による変更が多く利用調整が難しい
- ・利用者に電話とメールで連絡し、つながりにくいこともある
- ・食事の発注を固定にし、利用人数によってスタッフで買い取ることもあった
- ・見学希望もあったが、利用者に配慮し最低限にした

コーディネーター所感

「産前産後のおうち」の反響は広報時点から大きかった。産後の生活状況が未知で、頼れるもの(人)がなく、実態がわからない様子だった。実際に試行がスタートしてからは、「切迫早産となり入院することになった」「上の子の赤ちゃん返りがひどく外出できない」「親族に1ヶ月までは外出しないように止められた」など産前産後の家庭の状況変化のめまぐるしさを目の当たりにした。そんな時だからこそ頼れる人や場所の必要性を感じつつ、安心してリラックスした状態で家に帰って欲しいとの願いが強くなった。事後の満足度は高く、おうちを利用後数ヶ月が経ち、すでに利用家庭は「先輩ママ・パパ」として力強く地域で子育てをし、同じように心細い思いをしている妊産婦家庭に「大丈夫だよ!」と声をかける存在になっている。そんな姿からこの場が明るい未来を必ずつくると信じ、安定的活動にしていける可能性をさらに模索したいと思った。

利用者の声

- 助産師さんに話を聞いてもらい心強かった
- 先輩ママパパのお話がとても役に立った
- 赤ちゃんをたくさん抱っこしてかわいがってもらえてうれしかった
- 両親教室などでは聞けなかったことも個別に聞いて良かった
- こんなヘルパーさんが地域にいたらお願いしたい
- 久しぶりに家族以外と思う存分しゃべった
- 私だけが不安じゃなかったんだとわかった
- 夫にも体験してもらえてよかった
- ボランティアさんに上の子と遊んでもらって本当に良かった
- 地域の人に頼るといことがどういことかわかった

